

# 規制緩和を行政法・経済法から捉える

## 法・友岡史仁 助教

規制緩和という文字や言葉に触れない日はない。言葉に触れない日はない。か、格差社会が広がった。耐震偽装問題は建築確認業務を民間に委託した規制のなれの果てだ、という

関係を中心に見ています。規制の効果として競争が出てきたが、その状態を法的にどう捉えるか」と

# 競争激化の実態は？

## 消費者守る法の視点も

切り出した。

### 必要な法律学の視点

「規制は行政機関がやっているわけで、その緩和を考える上で行政法の知識が前提になる。他方で規制緩和でどんな効果が生まれるか、私は公益事業の柱であるエネルギー化がテーマだった。

「スミス氏は経済学の観点からではあるが、規制緩和で競争を激しくやりなさい、という発想でしなさい。米国は実験的なことをやっているが、カリフォルニアやニューヨークで停電が起こった。自由化でいろいろな業者が出た。だから、論点を見極め

「いろいろな経験ができた。苦労もありました。苦勞もありました。現地の風土に当てるを選んだ。慶應大学大学院を修了してすぐに本学

「電力、ガス、電話、タクシーなど研究対象は際限ない。ただ、自由化の場合、制度はそうだろうが、実態がどうかというのが重要だ。自由化の効果の指標となるのは市場占有率となる。次なる問題はどの範囲まで自由化するか。電力であれば、現在は産業用と商業用の大口、さらに中口までいきましたが、われわれ小口の家庭での自由化はどうか。制度の問題が重要になります。」

「今後の研究課題として独禁法との関係を挙げたい。エネルギーに限らず公益事業全般について、独



研究室で文献に目を通す友岡助教



この日の友岡ゼミのテーマは、「タクシー業界の規制緩和」などをとりあげた

専任講師に。この4月に助教になったばかりの若手研究者である。

### 独禁法との関係は

友岡 史仁(ともお しかふみと) 平成9年法、経済法。日本経済法学会、日本公法学会、同大 卒業。同大 大学院法学研究科に進み修士課程修了、博士課程単位取得。同15年本学法学部などに所属。和歌山県専任講師となる。専門 出身。32歳。

### プロフィール

実経法学会、日本国

# 文学研究の方法論「受容理論」の実践

## 文理・佐々木稔教授

文芸学理論やメディア論が専門だが、ドイツ文学研究の方法論「受容理論」を講義で「実践」している。この理論はドイツの大学紛争を契機に確立された文学研究の方法論の一つで、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「受容理論」の意義は、再構築、文学作品の意味作り、読者の反応を取り込むという受容理論を確立したのです。ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。



ドイツの研究者と懇談する佐々木教授(平成12年)

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

# ニーズ先取りの感覚

## 映像・音声などメディアも利用

## 受け手との意思疎通重視

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。



メディア教室の授業は学生がいっぱい

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

「ドイツの大学で文学教育に導入された。」と話す。その理由として、ドイツの大学で文学教育に導入された。

### プロフィール

佐々木 稔(ささき みのる) 昭和38年文学部独文学科卒業。文学研究の方法論、特